

施策 No.	政策名	子どもから高齢者まで健康で共生のまちづくり	主管課	児童福祉課	主管課長名	萩原 英雄
1-1	施策名	子育て支援の充実と少子化対策の推進	関係課	健康推進課、こども園、幼稚園、学校教育課、国保年金課、農林課、生活環境課		

1. 施策の目的と成果把握

目的	施策の対象	対象指標名	単位	区分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	
	市民 子育てをする保護者	①桜川市人口	見込値	人		41,278	41,008	40,027	39,571	39,115
実績値						41,278	40,483			
②中学生までの子ども(乳幼児・児童・生徒)を持つ世帯数			見込値	世帯		2,695	2,691	2,688	2,685	2,682
						実績値	2,695	2,579		
			見込値							
						実績値				
成果指標設定の考え方		施策の意図	成果指標名	単位	区分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度
		安心して子どもを産み、子育てが できている。	①子育てがしやすいまちだと思ふ割合	%		目標値	48.0	49.0	49.0	50.0
実績値						46.8	46.8			
②子育てが楽しいと感じる保護者の割合			%		目標値	90.0	90.5	90.0	90.5	91.0
					実績値	88.1	84.3			
③仕事と子育てが両立できていると思ふ保護者の割合			%		目標値	63.0	64.0	65.0	66.0	67.0
	実績値				63.7	65.0				
④ファミリー・サポート・センターを利用した保護者の年間延べ利用者数	人			目標値	40	45	45	50	55	
				実績値	0	22				
	目標値									
				実績値						
成果指標の把握方法と算定式等	○安心して子供を産み子育てができるには、子育てがしやすいまちと思ふ割合が増加すると、子育てしやすい環境が整っていると考えられ出生率が上昇する。 ○子育て支援が充実することによって子育てが楽しいと考える保護者の割合が増加すると考えられる。 ○女性の就労人口が増えることにより仕事と子育ての両立が厳しく思われ、子育て支援が必要と考えられる。 ○子育て支援としてお子さんを預かってほしい「お預かり会員」と預かってくださる「まかせて会員」のマッチングをすることで安心して子育てが行える。									
	○対象の人口は、毎年10月1日の常住人口。 ○①子育てがしやすいまちだと思ふ割合、③仕事と子育てが両立できていると思ふ保護者の割合は、市民アンケートより求める。②子育てが楽しいと感じる保護者の割合は、乳幼児健診時アンケートより求める。④ファミリー・サポート・センターを利用した保護者の年間延べ利用者数は事業者からの利用実績報告数より求める。									

2. 施策の成果水準とその背景・要因

1) 現状の成果水準と時系列比較(現状の水準は以前からみて成果は向上したのか、低下したのか、その要因は?)

実績比較	<input type="checkbox"/> 成果がかなり向上した	<input type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば向上した	<input checked="" type="checkbox"/> 成果がほとんど変わらない(横ばい状態)
	<input type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば低下した	<input type="checkbox"/> 成果がかなり低下した	
背景・要因	・平成31年3月末の桜川市の年齢別統計表によると、5歳児の人口は、248人、4歳児272人、3歳児224人、2歳児243人、1歳児201人、0歳児173人と年々児童数は、減少していることがわかる。 ・桜川市が子育てしやすいまちだと思ふ割合は、2017年度では、46.8%、2018年度では、46.8%で横ばい状態。 ・子育てが楽しいと感じられる保護者の割合は、2017年度で、88.1%、2018年度では、84.3%でやや減少した。 ・仕事と子育てが両立できていると思ふ割合が2017年度で、63.7%、2018年度では、65.0%とやや向上した。 ・ファミリーサポート・センターの利用した保護者の年間延べ人数については2017年度においては0人だったが、2018年度では延べ22人の利用があった。		

2) 成果目標の達成状況

実績比較	<input type="checkbox"/> 目標値のすべてを上回った	<input type="checkbox"/> 一部の成果指標で目標値を上回った	<input type="checkbox"/> 目標値どおりの成果であった
	<input checked="" type="checkbox"/> 一部の成果指標で目標値を下回った	<input type="checkbox"/> 目標値のすべてを下回った	
背景・要因	・桜川市が子育てしやすいまちだと思ふ割合は、平成30年度46.8%で目標値に達しなかったが、約半数の方が満足している。 ・子育てが楽しいと感じられる保護者の割合は、平成30年度84.3%で目標値に達しなかったが、非常に高い割合の保護者が子育てが楽しいと感じている。 ・仕事と子育てが両立できていると思ふ割合は、平成30年度65.0%と目標値に達している。 ・ファミリーサポート・センターの利用した保護者については、目標値に達しなかったが、今年度は22人の利用があった。		

3. 施策の成果実績に対するの総括と今後の課題・方針

施策の成果実績に対するの総括	今後の課題・方針
施策実現に向けた取り組みとして、次の事業において目標値達成は困難であったが一定の成果が出せたこととする。 ・保育所入退所事務・・・保育の必要性のある子どもの入所申し込みを迅速に処理し、適切な審査を経て入所決定を行い保護者が安心して就労できている。 ・公立認定こども園民営化事業・・・民営化に向けて、あり方検討委員会で協議を重ね、保護者や保育士の説明同意を得て短期間での民営化を達成することができた。 ・学童クラブ運営事業・・・市内に設置された10カ所のクラブで児童を安全な体制のもとで事故もなく過ごさせることができ、保護者も安心している。	・子育てしやすいまちをつくるため、住環境の整備とともに子育てに当たり様々な各種補助金や金銭的支援があることも必要である。 また、子育てを楽しみ感じる保護者を増やすため、子育ての交流ができる地域子育て支援拠点事業など有効活用して活発な交流を促していく。 ・社会福祉協議会に委託しているファミリー・サポート・センターについては、子育てにおける負担軽減や仕事と子育ての両立のために有効に活用してもらえよう社協に周知徹底を行っていく。